

外部支援による臨時福祉避難所の設営に関する報告書

(抜粋)

<外部支援による臨時福祉避難所の効果>

(6)災害時地域包括ケアを支える「統合福祉避難所」機能の試行

これまで、ボランティア団体、社会福祉法人、福祉専門職団体等が臨時福祉避難所を設置した事例は少なくないが、様々な制約の中、避難者の自立も考慮した包括的なケアまでを行うことは困難であったと考えられる。

長野県ふくしチームの実践は、ケアマネジメント経験豊富なコーディネーター2名が交代で被災地に常駐し、臨時福祉避難所の運営を核にしながら、点在する一般避難所・福祉避難所はもちろん、在宅避難者支援や施設支援とも連携を試みており、災害時地域包括ケアを支える「統合福祉避難所」ともいべき機能を試行したと言える。

能登町のように中山間地に避難所が散在し、少数の要支援者が各所に分散している場合は、被災自治体外部からの支援も得ながら、このような「統合福祉避難所」を設置し、これを災害時の地域包括ケアの要として活用することの有効性は今後考慮されるべきであろう。

災害時地域包括ケアを支える「統合福祉避難所」機能のイメージ

